



## ウィズコロナ時代の幼児教育と向き合う

全日本私立幼稚園連合会  
会長 田中 雅道

新型コロナウイルスの感染がなかなか収まりません。日本で感染が広がり始めて約2年半。何が子どもの成長に影響しているのか、すぐに分からないだけに保育現場は不安になりますが、リスクにおびえて何もしないというわけにはいきません。私たちは常に子どもの成長を支える役割を担っているのです。

感染が広がり始めた頃、著名人がコロナによって命を落とす出来事があり、あらゆる犠牲を払ってでもコロナの感染拡大を抑えるというベクトルが働きました。感染拡大防止のために、令和2年4月・5月は幼稚園等の教育施設は閉鎖されました。

その後、何度かの感染の波を経験し、私たちが学んだことは、ウイルスを媒介とする病気を根絶することは不可能であって、「どうやってウイルスと付き合いながら日常生活を行っていくのか」という課題に向き合うことしかないということでした。

幸い、幼児教育の現場でコロナ感染によって命を落とした園児は今のところ報告されていません。もし、コロナに罹患したとしても命を落とすことはまずないということを前提条件とすれば、保育の現場の雰囲気はかなり柔らかいものとなります。私たちは子どもの命を預かる仕事をしているわけですから、できる限りの対策を練り、園内で感染が拡大しないように日常の保育を行っていく必要があります。その一方で、子どもたちに様々な遊びを提案し、経験を積み重ねることによって子どもの成長を支える役割を担っています。

マスクをつけるかつけないかということ一つを

とつても、マスクをつけることによって一定感染予防の効果がある一方、子どもは口元を凝視することによって言葉の発し方を学び、顔全体の表情を読み取ることによって人との付き合い方を学びます。一つの事象が感染予防と子どもの成長という、相反する要素を含んでいるのです。

しかし、そろそろ予防という側面よりも、教育的効果の側面に比重を置いた行動に移るべき時が来ているのではないのでしょうか。どこまでいっても感染リスクをゼロにすることはできません。防げないのであれば、防ごうとしてリスクを回避するよりも、リスクを共にして子どもの成長に軸足を移した日常を取り戻すことに意味があると思っています。

最後に、今年7月、警視庁に告訴していた本連合会の横領事件に関して、前会長及び前事務局長が逮捕されました。これから刑事事件としての公判が始まります。今後も険しい道のりが予想されますが、本連合会がすべての私立幼稚園・認定こども園等のため、また、そこに通うすべての園児のために世間の信頼を回復し、信頼していただける組織になるようこれからも努力してまいります。

## 全日本私立幼稚園連合会からの報告

全日私幼連

加盟園・関係各位

先日、全日本私立幼稚園連合会の前会長及び前事務局長が業務上横領、私文書偽造により逮捕されました。

本連合会の元役職員の逮捕という事態を招いたことは誠に遺憾であり、加盟園ならびに私立幼稚園等の関係者をはじめとする皆様方に多大のご心配とご迷惑をおかけしましたことについて、改めてお詫び申し上げます。

本連合会としましては、内部調査の結果を踏まえまして、両名の処罰を求めて告訴し、これまでも捜査に対して全面的に協力をしてきたところであります。

なにぶん、捜査が進行している最中であり、マスコミ報道を含め情報が錯綜しておりますので、詳細について述べることは控えさせていただきます。しかしながら、本連合会としては真相が解明されることを期待し、引き続き、捜査に全面的に協力してまいります。

本来であれば記者会見を開き、多くの皆様に謝罪と説明をいたすべきですが、前述の通り現在、警視庁の捜査中でありますので控えさせていただきます。

なお、加盟園の皆様には然るべきタイミングにおいて詳細をお知らせする予定ですのでご理解賜りますようお願い申し上げます。

本連合会では、失墜した信頼を回復するために、現在、一丸となって、適正な運営を実現するための諸方策を講じるなど、ガバナンスの向上に努めているところでありますので、引き続き、皆さま方のご理解とご支援を賜りたく、何卒よろしくようお願い申し上げます。

令和4年7月15日

全日本私立幼稚園連合会  
会長 田中 雅道

## 全日本私立幼稚園 PTA 連合会からの報告

全日本私立幼稚園 PTA 連合会 関係者各位

先日、全日本私立幼稚園連合会の前会長及び前事務局長が業務上横領、私文書偽造により逮捕されました。

全日本私立幼稚園連合会の役職員による不祥事ではありますが、未然に防げなかったことは誠に遺憾であり、加盟園の関係者並びに保護者の皆様方に、多大なるご心配とご迷惑をおかけしましたことについて、改めてお詫び申し上げます。

PTA 連合会としましては、全日本私立幼稚園連合会と連携し内部調査を実施しその結果を踏まえ、両名の処罰を求めて告訴し、これまでも捜査に対して全面的に協力してきたところであります。

現在のところは、警視庁の捜査が進行している最中でありますので、詳細について述べることは控えさせていただきますが、PTA 連合会としては、真相が解明されることを期待し、引き続き、捜査に協力してまいります。

今後は、会計処理の適正化や組織運営の見直しを含めた改革を実行し、独立した健全な団体として、ガバナンスの向上に努めてまいります。引き続き、皆さま方のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

令和4年7月15日

全日本私立幼稚園 PTA 連合会  
会長 河村 建夫

令和5年度私立学校関係政府予算に関する要望において、本連合会では、以下の通り、私立幼稚園関係予算の編成に関する要望をまとめましたので、本紙に掲載いたします。

### 令和5年度私立幼稚園関係予算の編成に関する要望

幼児教育の重要性を十分に踏まえた振興策の充実は、我々私立幼稚園・認定こども園の永遠の願いであり、すべての子どもが良質な幼児教育を受けられるよう制度を整備するとともに、すべての施設が良質な幼児教育環境を提供できるよう努力していく事が重要であり、そのためにも、特に以下の点に重点を置いた施策を推進していただきたい。

- ① 幼稚園・認定こども園に勤務する全ての教員等が、やりがいをもって子どもたちに接することができるよう、園の設置形態や私学助成・施設型給付の別にかかわらず、引き続き処遇を改善していただきたい。
- ② 教育費の負担軽減制度は『重要な子育ての支援策』であり、『少子化対策』の役割も担っています。現在、月額 25,700 円（年額 308,400 円）を保護者に補助していただいておりますが、未だ衰えぬ新型コロナウイルス感染症や昨今の物価上昇などを鑑み、幼稚園児の保護者は若年層世代であることを踏まえ、さらなる単価の引き上げをお願いしたい。
- ③ 幼児教育スタートプランの着実な具体化を進めるとともに、義務教育など教育制度全体との接続を確保した上で幼児教育の推進体制を強化していただきたい。併せて、自治体や小学校に対して、幼児教育との接続・連携の重要性を啓発するとともに、幼児教育の質の向上に係る研究を推進するなど国として具体的な取組みを充実していただきたい。

以上を踏まえ、令和5年度予算の詳細な要望事項は、次のとおりです。

#### I 私立高等学校等経常費助成費補助制度（幼稚園分）の拡充等

1. 私立高等学校等経常費助成費補助制度（一般補助）（幼稚園分）の充実
2. 同補助制度に関し、幼稚園教員の人材確保支援の拡充強化
3. 無償化に伴う私学助成園の事務負担の増に対する事務処理体制の整備のための、継続的な財政支援及び広域利用が多い幼稚園と市区町村との間の事務負担の軽減
4. 私立高等学校等経常費助成費補助制度（幼稚園特別支援教育経費）に係る交付要件の緩和や専門家による巡回指導、あるいは特別支援教育支援員の配置等
5. 個人立・宗教法人立等の幼稚園に対する私学助成の特別補助制度の創設

#### II 子ども・子育て支援新制度

1. 公定価格の基本分単価の改善（コロナ禍等による出生数の減少等による園児減への対応及び2号・3号児も合わせた減収への対応）

2. 公定価格の加算の充実（処遇改善等加算、主幹教諭等専任加算、主任保育士専任加算などの見直し）
3. 地域区分を幼児教育独自の形で改善し、地域の人材流出の是正
4. 認定こども園における市町村外の2号・3号児の受け入れ緩和による広域通園の実現
5. 一時預かり事業（幼稚園型）の事務職員配置加算における小規模保育等との連携要件の撤廃、専任職員の増
6. 新制度に関する市町村への申請手続きに関する事務量の軽減の実現
7. キャリアアップ研修における研修実施主体の認定促進

### Ⅲ 幼児教育の質の向上・多様な課題に対応する園内体制・施設整備の支援

1. 大学等と一丸となった幼児教育における質の高い人材の確保
2. 公開保育を活用した幼児教育の質向上システム（ECEQ）等も活用した幼児教育推進体制整備
3. キャリアステージにあわせた研修等の機会の確保
4. 一種免許状への上進に伴う教員の処遇改善
5. 多様な課題に対応する園内体制の整備支援（保育定数の引き下げ等による教員の負担軽減及び質の向上、被災した子どもや家族の心のケアの担い手育成など）
6. 未就園児（3歳未満児含む）の預かりや保護者支援の推進
7. 幼児教育の質を支える私立幼稚園施設整備費補助金の充実及びこども家庭庁に移管される認定こども園部分の現状制度への配慮
8. 教育支援体制整備事業費交付金（特に幼児教育の根幹となる遊具等の整備支援）の充実

### Ⅳ 新型コロナウイルス感染症への対応のための私立幼稚園等への支援・延長の充実

1. 新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策に対する支援の継続・延長の充実
2. 教員・保育士へのメンタルヘルス対策、休園時等におけるインターネットを活用した教育への支援等各般の対策を要望

以 上

**園児たちの日常や  
伝えたい情報を  
写真・動画で。**

**森の  
掲示板**



- 簡単な操作
- 動画の音声やBGMの設定が可能
- 設置場所はどこでもOK

森をモチーフにしたデジタルサイネージ。まるで自然の中で子どもたちが楽しんでいるかのよう♪園の入口で目を引くかわいいデザインです。

開発・販売

 株式会社 **チャイルド社** コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11  
ホームページ：<https://www.child.co.jp>



## 全日本私立幼稚園PTA 連合会会長に

### つきもと き く 月本喜久氏を選任

7月22日、東京・私学会館において全日本私立幼稚園PTA連合会の令和4年度PTA委員総会が開催され、委員48人が出席しました。

はじめに、月本喜久・全日私幼P連副会長から開会のことばがあり、河村建夫・全日私幼P連会長からからごあいさつをいただきました。

その後、議長に大越誠之・全日私幼P連副会長を選出し、議事に入りました。

#### 議題(1) 役員改選の件

役員改選について、会長に月本喜久氏の選任が満場一致で議決されました。副会長には、遠藤利明氏(山形県)、山本順三氏(愛媛県)、大越誠之氏(北海道)、敷樋昌子氏(埼玉県)、山本英之氏(滋賀県)、前田麻衣氏(鹿児島県)が選任され、満場一致で議決されました。

議題(2) 令和3年度事業報告・収支決算承認の件、



(3) 会務監査報告の件、(4) 令和4年度分担金の件、(5) 令和4年度事業計画案・収支予算案承認の件については、再度PTA委員総会を開催し、審議することとなりました。

最後に、敷樋昌子・全日私幼P連副会長から閉会のあいさつがあり、委員総会を終了しました。

## 全日本私立幼稚園PTA 連合会会長就任にあたって

全日本私立幼稚園PTA 連合会  
会長 月本 喜久



令和4年7月22日に開催された令和4年度PTA委員総会にて、全日本私立幼稚園PTA連合会会長に選任されました、つきもと き くと申します。これまで長きにわたり、全日本私立幼稚園PTA連合会副会長として尽力してまいりましたが、このたびの会長就任にあたり、責務の重大さに身の引き締まる思いがいたします。

甚だ微力ではございますが、本PTA連合会の本来の目的である「家庭教育の充実向上」と「幼稚園

教育の振興」にもしっかりと目を向けながら、河村建夫前PTA会長の功績と抱かれてきた想いを受け継ぎ、保護者と教職員が一丸となって、さらなる団体の発展と幼児教育の充実のために専心努力していく所存です。

今後も皆様からのご指導とご支援を仰ぎつつ、誠心誠意努めて参ります。何卒よろしくお願い申し上げます。

## 視点

# 職場の豊かな人的環境づくり

西九州大学短期大学部 幼児保育学科教授 牛丸 和人



筆者は小、中、高等学校それぞれの校長を経験して現在の職にあります。管理職時代を振り返ってみますと、いずれの職場においても人材育成は大きな課題の一つでした。学校運営の土壌となる職場の豊かな人的環境づくりは、多くの園にとっても課題なのではないでしょうか。如何に管理職が立派な目標を掲げようとも、それを理解し実践していく人材(人材) 無くして目標達成は困難です。当たり前のことですが、人材を育成するのは管理職だけの役目ではありません。管理職も職場の人材の一人であることを自覚しておきたいものです。そして若手もベテランも全てのメンバーが課題を共有し合い、課題解決に向けて知恵を出し合い、協働できるような人間関係の醸成が不可欠なのです。そのためには、まずは管理職が望ましい言動を率先垂範しながら個々の職員が孤々ではなく、チームとして力を発揮し合えるような雰囲気づくりに努めることが肝要だと思います。本学の幼児保育学科の学生に対するアンケートの中に「就職先を決める際に重要視することは何か」という質問項目があるのですが、毎年多くの学生が「実習やフリー参観時に感じた職場の先生方の雰囲気」と回答します。これらのことを踏まえ今回は「園の豊かな人的環境づくり」についてお話しさせていただきます。

仏教用語に「因縁」という言葉がありますが、植物に例えると因は種子、縁は日光や水、土といった環境のことだと言われます。つまり、いかなる可能性を秘めた種子であっても、蒔かれた場所によって花を咲かせ実をつける種子もあれば、逆に枯れてしまう種子もあるということです。これはそのまま人間にも当てはまることでしょうか。この園は個々の職員にとってどのような環境なのか？職員間は思いやりに溢れているだろうか？豊富な知恵や知識や技術が養分として共有できているだろうか？管理職も含め全員で振り返りたいものです。これはAIにはできません。

豊かな人的環境づくりの基本は何と言っても職場の豊かなコミュニケーションだと私は思っています。皆様の園の職員室の空気感はいかがでしょうか。

お菓子を配ることばかりが思いやりではないですね。例えば前日休んだ同僚に次の朝何人が声をかけているでしょうか？日々「お疲れ様」「ありがとう」「おかげで助かった」等々のねぎらいの言葉が飛び交っているでしょうか。思いやりのある言葉かけは数秒で誰にでもできることです。管理職は「できないことをできるようにするために指導・支援」だけでなく「誰にでもできるのにできていないことに対しての指導・支援」も忘れてはならないでしょう。誰にでもできるコミュニケーションに挨拶があります。たかが挨拶ですが、されど挨拶です。毎朝、何人が気持ちの良い挨拶と共に職員室に入り何人が振り返り向き笑顔で挨拶を返していますか？保護者や客人が来園した際にはいかがでしょうか？宅急便、郵便配達員への挨拶やねぎらいの一言はあるでしょうか？因みに明るい挨拶や言葉かけは不審者対応としての危機管理にもつながると言われています。私たちは挨拶ひとつとっても「子どもにさせる」ことばかりに意識が向かい過ぎて「自ら進んで実践する」ということを忘れがちです。「子どもは真似の天才」とも言われますが、子どもに身に付けさせたい価値のある言動を管理職も含む全ての職員が、見本(手本)として日々子どもたちの前で実践する職場でありたいものです。基本的な日々の挨拶や言葉かけもできていない園に豊かな人的環境など生まれません。私はそう考えています。加えて豊かな言葉かけは当然職員同士だけに求められるものではありません。子どもや保護者に対しても必要です。私は管理職時代に職員に対して「年に一度でいいから保護者に【うれしかったです電話】をかけてみてください。」と話していました。子どもの気になる行動について連絡することが多いですが、時には「今日のお片付けの時に最後まで頑張ってくれて嬉しかったです。お家でも褒めてあげてくださいね。」という些細な一言電話が、園に対する信頼につながることもあるのです。

各園長先生方が価値ある言動を率先垂範なさりながら、職場の豊かな人的環境づくりをマネジメントしていただくことを願っています。



2021年12月号より一般社団法人家族・保育デザイン研究所、東京大学名誉教授である汐見稔幸氏による年間連載を開始いたします。教育学、教育人間学、保育学、育児学を専門として第一線で活躍されています。幼児教育について注目されている今、より一層理解を深め、日々の幼児教育の参考にしてみてください。

## ゴールが一律に決まっていない世界を楽しむこと

一般社団法人家族・保育デザイン研究所  
東京大学名誉教授 汐見 稔幸

この夏、私は3日続けて異なる地域の幼稚園の園長・主任の研修に付き合いました。そこでいくつか共通の問題が話題になりましたが、私が気になったことは、若い教諭の発想の固さへのベテランの先生方の不満や不安でした。固さという伝わりにくいかもしれませんが、思考がどこか閉ざされていて、自分で好きなことに自由に向かっていく精神の自由度が少ないことへの嘆きというようなことです。たとえば、ある人は以下のことを問題にしました。

その人は、ある大学で幼稚園の教諭の養成をしており、学生に、自然の中で自由に身を投げ出し、自然と会話することを何とかわかってもらいたいとあれこれ工夫している人です。その人が授業で出した課題です。

「ここに大きな木があるとします。その木に子どもたちが登りたいと言い始めたとして。あなたは

そのとき、どういうことを子どもに言いますか？」

こんな課題を出します。するとほとんどの学生が「足下の石とか、がれきとかけがしそうなものを指摘して、気をつけてねといいます」「落ちたらけがするからあまり高く登らないでねといいます」「細い枝は危ないから掴まないのよといいます」等、けがをしないように気をつけて、ということをあれこれ言うと答えたのです。みなさんはどう思いますか。

確かに子どものけがを防ぐということは大事なことです。しかし、それ以上に木に登りたいという子どもの気持ちは、今の時代を考えると貴重なもので、その気持ちにまずは共感し、その上で、その共感の気持ちの言葉とか、励ましの言葉とか、先生も登ろうかなというような言説とかを発声することを期待したいと思いませんか。しかし、そういう学生はいなかったのです。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

# 月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表  
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表



その人は、どうも今の学生は、そういう風に、失敗しないように失敗しないようにあれこれ配慮する、それが大事、ということをやっと学んできたのではないだろうか、と言います。木に登るといふことは、社会の規律をしっかり守るように教育された人には本当はいけないことと思われている可能性もある。何がよくて何がいけないかなど、簡単に決められることではないのにね、とも言います。

確かに、今の教育は、自分自身で自由に自分をつくっていく教育になっていないように思います。子どもたちに、はみ出しながら自分をつくっていくことが大事ということをやばせていないといってもいいでしょう。試行錯誤して、あれこれ試しつつこれは大丈夫、これは失敗する等を自分で学んでいく。それが昨今言われる非認知的能力になっていくのだと思われませんが、それは教師や学校があらかじめ決めたルールをいかに失敗しないで歩くかという練習をしては身につかないものです。

テレビゲーム的な世界での自己実現は、失敗したらリセットできる世界での自己実現ですから、失敗しながら新たな道を自分で作り出すことはできません。学校でいじめられないために、学級等の集団の力学を必死で感じ取り、その力学の中で浮かないように浮かないようにと行動することも、自分で自由に発想して自己実現していく道とは逆です。

今年の夏の研修で、園長等が懸念していたことは、

せっかく環境を通じた教育、結果よりもプロセスを大事にする教育、ということに挑もうとしても、若い先生方が、失敗しないように、ケガしないようにということをや先に発想してしまうように振る舞う限り、新たなことを生み出すことはなかなかできないという不満だったように思います。別の形で子どもを管理してしまうことにならないかという懸念といってもいいでしょう。

保育に計画は必要です。しかしその計画は、ゴールが決まっている計画ではなく、途中が面白く、子どもたちが生き生きして遊び何かに挑むことを応援するという計画であって、ゴールが子どもたち次第で臨機応変に変わっていく計画です。ある意味、着地点なきゴールです。それを面白がる感性が教師には必要なのです。

そういうことが面白い、大事、と感じるようには育ってこなかった世代に、現場でどう新しい保育を担ってもらうか。私は、子どもたちを日々観察して、子どもってすごい、面白いと見つけたことを毎日語り合うということの中にヒントがあるように思っています。



チャイルドブックの月刊保育雑誌

2022年度のPotは  
**大特集 & プチ特集**の  
W特集で  
保育力アップ!

さらに「Pot 指導計画」は  
**毎月付録**になりました。  
指導計画はポットにおまかせ!

定価1,100円(本体1,000円+税10%)  
[www.childbook.co.jp/pot/](http://www.childbook.co.jp/pot/)

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21  
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392  
[www.childbook.co.jp/pot/](http://www.childbook.co.jp/pot/)

ご注文は、貴園担当のチャイルドブック販売店  
または書店まで。

チャイルド本社



**受配者指定寄付金制度**を利用して、学校法人立の私立幼稚園へ寄付を行うと、寄付者（企業・法人）は法人税法上の優遇措置として**全額損金算入**することができます。

ご利用には一定の要件があります  
まずは、下記までお気軽にご相談ください

日本私立学校振興・共済事業団  
助成部 寄付金課  
〒102-8145  
東京都千代田区富士見 1-10-12  
TEL 03-3230-7316 ~ 7318  
Eメール kifukin@shigaku.go.jp  
HP-URL <https://www.shigaku.go.jp/>

## 受配者指定寄付金制度

をご活用ください

寄付金募集の際には日本私立学校振興・共済事業団の

# はじめてみませんか 寄付金募集

寄付金は私立学校の  
重要な収入源です！

※子ども子育て支援施設（学校法人が設置する幼保連携型認定こども園）支援のための寄付金もこちらの制度の対象となります

## 「シン・ヨウジキョウイク」始動!

一社)新潟県私立幼稚園・認定こども園協会では、今年度より若手の後継者を中心にシン・ヨウジキョウイク研究委員会を立ち上げました。

このシン・ヨウジキョウイク研究委員会は、日本の幼児教育の歴史を再認識し、「創造」、「想像」、「倉橋惣三(注1)」の3つのそうぞうを、「そうぞうプロジェクト」として研究していき、協会内での研修やいずれは(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の幼児教育実践学会などを通して研究内容を発信していくことを目指しています。

Society 5.0時代に向けて、子どもたちの学びも大きく変わってきています。社会がこれまでのような「正解が一つ」の時代から、「正解が一つじゃない時代」へと変わっています。この社会の変化に対応すべく、中央教育審議会が発表した『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」を理解し、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた保育を目指さなくてはなりません。そして、幼稚園・こども園から小学校へスムーズに導けるよう「架け橋期のカリキュラム」を構築し実践しながら、子どもたちの資質・能力を伸ばすことが重要となります。以上を念頭に置いてこのシン・ヨウジキョウイク研究委員会は今後、幅広く研究を行っていきたいと思います。

他地域においても、研究会が立ち上がっていることを耳にします。このシン・ヨウジキョウイク研究委員会は、まだまだ始まったばかりですが、他地域の研究を学びながら、新潟から全国へ、そして、世界へ日本の幼児教育を発信していきたいと思えます。

(一社)新潟県私立幼稚園・認定こども園協会副理事長、新潟市・認定こども園藤見幼稚園／濱野義信)

## 学びを支える

本県では、毎年8月の月上旬に、鳥取県私立幼稚園・認定こども園協会の加盟園27園による研修大会が行われます。県内、西部・中部・東部の3つの地区が持ち回りで主催・会場となります。私が就職した頃は、6月の平日に開催され、加盟園の先生方が一堂に会し、普段お会いすることのない離れた地区の先生方と顔を合わせて、公開保育、基調講演、分科会での実践発表・討議が行われました。一日の研修で、自分の保育を振り返り、翌日からの保育に向けて、多くのことを学ぶ時間でした。

その後、子育て世代の生活の変化に伴い、保育を必要とするお子さんも多くなり、県内の私立幼稚園の半数以上が認定こども園に移行しました。社会や保育現場の状況をふまえて、現行の時期となりましたが、加盟園の現場の先生方にとっては大切な研修の場となっています。一昨年は、新型コロナウイルス感染症拡大により、延期を余儀なくされましたが、昨年度は西部地区の実行委員会の先生方の主催で、講演会・分科会の実践発表を、期間限定にしてのYouTube動画配信、研修レポートの提出という形で実施されました。初めての取り組みでしたが、自分の勤務に合わせて視聴できることで対面開催より参加率が高く、複数の保育実践を研修できるといった対面ではできない利点、成果がありました。知恵を絞り、学びの場を設定していただいたことに感謝し、今年度、私達東部主催でも引き継いで動画配信を計画しました。今回は、提出された研修レポートを、より有効活用できたらと考えているところです。

感染症収束の見通しがたない中ですが、引き続き、保育者の資質向上に向け、現場の先生方の、学びの場の保障を大切に考えていきたいと思えます。

(鳥取県私立幼稚園・認定こども園協会副会長、鳥取市・認定こども園鳥取第一幼稚園／田村雅子)

(注1) 大正～昭和時代にかけての日本の教育者

## 編集後記

九月の祝日「敬老の日」は、内閣府のホームページ内の「国民の祝日に関する法律」を参照すると、「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う」といった意味が込められているとあります。人生の大先輩に敬意を表す意味で、大事に保育の一環として取り入れている園も多いのではないのでしょうか？子ども達にとって、身近な存在としての「おじいちゃん、おばあちゃん」という優しい人というだけではなく、実際に身内には

いなくても、自分たちの暮らしている周りにおける大切な存在として、「ありがとう」を伝え、「いつまでもお元気で」と労わる気持ちを持つ一つの機会になっていると思います。

敬老参観を実施し、感謝の気持ちを目の前で伝えたり、プレゼントやビデオメッセージを届けたりなど工夫しながら、子ども達には心から年長者への敬意と優しい気持ちを持てるような環境を創っていきたいと思います。（広報委員・塚本真紀）



遊具：HOUSE

## 未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、  
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。  
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。  
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。



## 人材育成・人材確保の悩みに解決のヒントをご提案します

# 園のリーダーのために 保育ナビ

予測困難な時代に対応した保育・園運営に役立つ、「国の動き」「人材育成」「園経営」「保育内容」「子どもの姿ベースの指導計画」「乳児保育」「小学校との接続」など必須の情報をお届けします。

B5判 80ページ 定価 1,100円（本体 1,000円+税 10%）

「子ども主体の保育」  
「小学校との接続」など、  
注目テーマも掲載！

誌面と  
連動した動画を  
毎月配信！

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>  
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 子育て支援事業部まで

キンダーブックの **フレール館**